

令和元年度 第2回安曇野市博物館協議会 会議概要

1	会議名	令和元年度 第2回安曇野市博物館協議会
2	日時	令和元年10月8日 午後1時30分から午後3時30分まで
3	会場	安曇野市役所本庁舎 3階 会議室 301
4	委員出席者	笹本会長、百瀬副会長、春日委員、古根委員、齋藤委員、高原委員、須之部委員、細野委員（欠席：小河委員、金井委員）
6	事務局出席者	西村教育部長、那須野文化課長、豊科郷土博物館兼穂高郷土資料館原館長、豊科近代美術館兼飯沼飛行士記念館荒深館長、田淵行男記念館曾根原館長、穂高陶芸会館小倉館長、高橋節郎記念美術館黒岩館長、貞享義民記念館清水館長、臼井吉見文学館平沢館長、財津博物館係長、逸見博物館係主査、倉石博物館係係員、三澤文化振興担当係長、諏訪文化振興担当主査、内山文化振興担当主任
7	公開・非公開の別	一部非公開
8	傍聴人	1人 記者 2人
9	会議概要作成年月日	令和元年10月11日

協 議 事 項 等

○会議の概要

1 開 会 那須野文化課長

2 あいさつ

笹本会長

- ・10月20日堀金にて南信州民族芸能継推進協議会が講演を開くのをご存知であろうか。また、11月14・15日全史料協が安曇野市で開催される。新たに開館された文書館が、日本全国においてどのような位置を占めるのか確認する大変重要な機会である。
- ・安曇野市の文化は今注目されている。地域の中だけで見るのではなく、全国からとらえ、もう一度再認識をしていっていただきたい。

西村教育部長

- ・各館とも予算・人員が少ない中、工夫を凝らした事業展開をしている。
- ・来週末の10月12日から14日までの3日間と22日の即位礼正殿の儀を記念し、全館無料開館を行う。昨年合計1700人ほどの来場者をお迎えした。是非この機会に、多くの方にご来館いただきたい。

3 報告・協議

(1) 令和元年度各館事業進捗状況及び令和2年度事業構想について（資料1）

各館館長より説明

■豊科郷土博物館

- ・開館40周年記念・夏季企画展として実施した「明科廃寺が造られた時代」は文化財資料センターとの連携のもと実施した。大変好評であり多くの市民の方にご来館いただいた。特に、明科廃寺に関連した講座は予約の段階で定員を超えた。今後も、市民の関心の高いテーマを探し企画に結びつけることが課題だと改めて認識した。アンケートは入館者の14.5%集まっ

たが、回答者の大半が安曇野市民である。この結果から、今後も市民向けの企画を考えたい。

- ・子ども向けのワークショップをいくつか企画したが参加率が悪かった。今後の課題である。
- ・来年度は満願寺を歴史・民俗・自然の分野から総合的に取り上げた内容を考えている。また今年には明科地区を取り上げたが、来年度は穂高地区、5年計画で各地を取り上げたい。

■豊科近代美術館

- ・春の特別展「千田泰広展」を開催した。会期中は6,042人の来館があった。アンケート結果は資料のとおりである。今回現代作家を招いての展示であったが、インスタレーションの制作の過程で中学生に参加をしてもらった機会もあった。今回、費用を捻出するため様々な補助金を利用した。またテレビ宣伝や新聞の折り込みチラシによる宣伝の効果もあり、新たな年齢層20～40代の入館者数が半数以上を占めた。
- ・夏の特別企画展「北野敏美の版画×小林一夫の立体」では1,349人の来館があった。銅版画と抽象彫刻という異質のジャンルのコラボレーションであったが、アンケートでの回答は好評であった。
- ・来年度は「改組新第6回日展安曇野展」、「第59回日本現代工芸美術展長野巡回展」、シンビズム4、高田博厚生誕120周年記念展を予定している。

■田淵行男記念館

- ・今年のメインは田淵行男没後30年特別企画展「田淵行男の世界」である。田淵の手作りのアルバムの紹介、NHKのEテレ「日曜美術館」で紹介された山岳写真を中心に展示している。長い期間なので、展示替えを行う。地下展示室では「田淵行男細密画展」を夏休み期間中に行った。
- ・イベントについて、毎年春には「百楽桜まつり」を行っており、今年は約200人が参加した。また、こども自然観察教室「むしの会」では毎月1回自然観察を行い、毎回20人程度の参加者がいる。2月に修了式を行う。
- ・来年度について、来年は開館30周年を迎えるため記念事業を行う。また第6回田淵行男賞写真作品公募も行う。企画展の内容を充実させ、特に近隣の方に来ていただけるよう広報活動を充実させたい。

■飯沼飛行士記念館

- ・成果について、遺族の協力によって、市民や「神風号」を知らない世代に飯沼飛行士の偉業を知っていただくことができた。入館者数も年々増加している。
- ・反省として、以前指摘もあった「館の前を素通りせずに中に入れるような工夫」という課題に対してまだ具体的な取り組みができないでいる。
- ・予定事業について、開館30周年記念式典記念講演会を10月に開催する。講師の方は、プラモデルを専門に製作している会社の社長であるが、25年前に来館され当時の館長との会話の中で神風号のプラモデルの製作ができたらとの会話をした。昨年実現し、今回講師を依頼することとした。

■穂高陶芸会館

- ・成果として、陶芸クラブ員の勧誘を積極的に行った結果、会員数が7月ですでに計画数(70名程度)を超えた。例年は10月にならないと超えない。
- ・反省・改善点として、作陶体験者は昨年より増加している。
- ・実施事業について、「マイカップ作り&豊科近代美術館喫茶室でコーヒータイム」は今年で3年目になるが、今年は参加された方々全員が豊科近代美術館を訪れているようである。「夏の親子陶芸教室」も人気が高く、募集開始当日に定員に達した。「陶芸教室の日」も好評である。ま

た市域の小中学校の生徒による陶芸体験も盛況である。

- ・予定事業について、10月20日には「野点の会」として陶芸クラブ員が作製した抹茶茶碗を使って裏千家の方々に野点をしていただく。この日は入館料を無料にする。
- ・来年度事業について、好評な企画は来年度も実施したい。またその中で新たな企画も探していきたい。

■高橋節郎記念美術館

- ・企画展「そして、高みへーキュビズムと高橋節郎ー」ではキュビズムが日本で取り上げられ始めた時期、1940年代作品を紹介することができた。岡本太郎や坂田一男作品も展示できた。
- ・春季展示「花日和」は信州花フェスタとの連携を意識して作品展示を行った。
- ・予定事業として、現在秋冬展示「実り 山々 冬の空」を開催している。実りや星空、山々をテーマに代表作の展示を行う。同時に「シンビズム3」では中信会場として作家3名の作品を生家と蔵に展示している。「第8回そば猪口アート公募展」では今年から出品料を徴収するようにしたが、221点の出品があった。
- ・エアコンの修理工事を1月から2月まで行う予定である。その間臨時休館とする。
- ・来年度について、春季展示「日展の芸術家 高橋節郎」では日展の作品を中心に展示する。豊科近代美術館での「現代工芸美術展長野巡回展」に合わせて、高橋節郎がリーダーであった「現代工芸美術協会長野会」のメンバー作品も展示したい。企画展では藝大時代の弟子2人の展示を行う計画である。
- ・高橋節郎が亡くなって12年がたつ。生前交流のあった方々から聞き取りを行い、エピソード集として残していきたい。

■貞享義民記念館

- ・市内小学校6年生へ「貞享義民見学のしおり」を配布した。三郷地域を中心に児童たちに館の見学の際に使用していただいている。
- ・昨年度発行した書籍『貞享騒動をたずねて』が販売数を伸ばしており、年度初めに増刷をした。
- ・予定事業について、「人権ポスターパネル展」では特に子ども、障がい者、LGBT、同和問題という4つに焦点を当てて展示を行う。11月開催の朗読会「おしゅん」は本日が申込み開始日だが、既に数人の申し込みがある。
- ・来年度事業について、自主企画展では「義民」「人権」をテーマに発信していきたい。また、文書館や森のおうち、長野県人権啓発センター、市の人権男女共同参画課などと連携を図っていきたい。

■臼井吉見文学館

- ・今年の3月までは指定管理制度の中で担当が常駐していたが、4月から直営ということで、隣接する文書館の職員がインターホン対応をしている。
- ・入館者数について、9月の段階で例年とあまり変化はない。来館者の3分の2が県外からであり、話をしてみると入館料が無料になったことを知って来館する人はいない。
- ・学校職員との連携として研修を行っている。友の会主催の研修会も活発である。
- ・実施内容について、講演会を臼井吉見の命日に今年も行い47名の参加があった。
- ・資料の保存について、文書館が併設のため5600枚の執筆原稿の保存・活用が進んでいる。
- ・3年後開館30周年になる。臼井吉見が多くの人と交わした書簡等の分析がまだ進んでいない。友の会とも協力しながら、館報という形でまとめていきたいと考えている。

■穂高郷土資料館

- ・今年から県宝指定された縄文土器3点を展示しているが、なかなか人が集まらないのが現状。周りが観光地であるのにもかかわらず観光客の来館が少ないため、テコ入れが必要かと考える。
- ・全体としてもっと特徴のある活動がしたいと考えている。

■美術館博物館連携事業

- ・安曇野市ミュージアム活性化事業実行委員会は、昨年度までは安曇野市美術館博物館連携事業実行委員会という名称で行っていた。上半期について、まず市民によるミュージアムサポーター11名に各美術館・博物館等の事業に協力していただいた。4月下旬には市立美術館・博物館年間ガイド及び、子ども1名、保護者1名が無料となるパスポートを市内小中学校へ配布し活用していただいている。各館の夏のワークショップをまとめたチラシも作成し配布もした。
- ・今後の予定について、10月中旬から11月初旬にかけて安曇野ミュージアムギャラリートークリレーを開催し、連携して各館を周遊していただく試みとしたい。
- ・穂高交流学習センターで展示予定の現代作家の作品を豊科近代美術館と高橋節郎記念美術館で行い、こちらも、あわせて3館を巡っていただく試みとしたい。
- ・学校ミュージアム事業を明科中学校・明南小学校を対象に明科体育館で12月開催する。市内美術館・博物館の作品を運び入れ、各館の学芸員が作品解説を行う。また出前展覧会を安曇野赤十字病院で行う予定である。
- ・信州大学との連携について、市内の館の資料を信州大学へ貸出し、調査を行っていただき、その展示を行う予定である。
- ・10月12日（土）から14日（月）の3日間、美術館博物館無料開放を行う。
- ・ちくに生きものみらい基金充当事業について、市内小中学校の自然観察会のバス運行経費として活用し、行程に市内美術館博物館の見学を組み入れるよう奨励している。

■新市立博物館準備室

- ・出前（コンパクト）展示について、昨年度まで27テーマを作成したが、今年度新たに3テーマを加えた。今年度は、本庁舎や交流学習センター、公民館、小中学校等で計13回491日間の開催をした。全体の満足度はやや低いため、来年度はテーマや内容について検討し、新たな企画をメニューに加えていきたい。

■会 長 委員の皆さんからは、次につながるような内容の提案をいただきたい

委員 豊科郷土博物館について、蚕が桑の葉を食べている様子を再現した展示があった。一見レプリカのようにあったが、実物であった。本物を見る非常に良い機会であると感じる。欲を言えば、街の様子などの紹介もあると良かったと思う。

委員 併せて、市内のいくつかの保育園でも蚕を育てており、先生方の熱心な取り組みを感じる。

委員 生糸とあわせて出前展示について、本庁舎での展示が非常に良かった。

委員 田淵行男記念館・豊科郷土博物館について、地形・地質の展示が足りないように感じる。今後化石資料の収集があれば、どこかの館に展示してほしい。

委員 田淵行男記念館について、今年子どもをつれて初めて入館した。こども自然観察教室むしの会について、その都度発表会はあるのか。

田淵行男記念館館長 発表会はないが、年に一度修了式という形で行っている。

委員 少しまとめの展示があると、今後参加する子どもにとってはわかりやすいと思う。豊科郷土博物館の「明科廃寺」の展示について、子どもには難しい内容と感じた。また、郷土博物館に限らず、県主催の「信州とあそぼ！」のスタンプラリーについての質問に対し、しっかりとした回答がなかった。県の方で周知が足りていないのではないか。

委員 周りの方々の中にも知らない人が多い。「こども自然観察教室むしの会、どこで申し込めるのか。」といった声がよくある。

委員 この夏に感じたが、子ども向け企画が飽和状態ではないか。学校で配られるチラシの数もきつと多いと思う。部活動などもあり忙しいと思う。重ならないよう連携していくことが大切。ただやっているようでは、アリバイ作りのように見えてしまう。飯沼飛行士記念館の紙のプラモデル作りは、とても参加者の関心が高かったように感じる。いかに利用する人の立場で考えられているかが課題と見えた。

委員 教員として、何かを突き詰めたくなるような投げかけがあると嬉しい。昨年豊科郷土博物館で、安曇野を荻原守衛の歩いた頃の絵地図展示があった。当時と現在の様子を比較しながら想像することができた。

以下は非公開

(安曇野市附属機関等の設置及び運営に関する指針第7条2号により、内部における審議、検討に関する情報であって、公にすることにより、率直な意見の交換及び意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれがあるため。)

(2)新市立博物館構想の進捗について(資料2)

(3)市史編さん事業について(資料3)

(4)その他

4 閉 会

以上

※会議概要は、原則として公開します。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。